



黒白フィルム用 パイロ染色現像液

東京パイロ TOKYO PYRO

概要

東京パイロは伝統的な現像主薬、ピロガロール（パイロ）を使ったオリジナル設計の現像液です。先進的な現像液のトレンドを取り入れながら、昔ながらの美しい粒状感も表現することができます。シャープネスは非常に高く、微粒子で、立体感の表現と美しい質感描写を備えています。特にハイライトの質感と粒状感において、独特の絵画的な表現を見ることができます。

現像処理に使用する水

現像液の希釈には、可能な限り蒸留水か逆浸透膜濾過水（RO水）を使用してください。停止、定着、水洗は水道水で問題ありませんが、フィニッシュ（ドライウェルやスタビライザー）には蒸留水か逆浸透膜濾過水（RO水）の使用をおすすめします。

調合方法

通常の使用では原液1に対して水99を加えて希釈します（希釈1+99）。原液の粘度が高いため、スポイトではなくシリンジの使用をおすすめします。静止現像などの特殊な現像でない場合は、希釈後30分程度でフィルム現像を終えるように準備してください。

現像処理

リールタンクによるマニュアル処理、シートフィルムの皿現像、ロータリープロセッサで利用可能です。現像前の前浴は基本的に不要です。処理液は使い切りです。



現像時間：ノーマルコントラスト

リールタンクによるマニュアル処理

フィルム	サイズ	ISO感度	温度	時間	希釈	攪拌	コントラスト
Rollei RPX 100	135	100	20°C	7分	1+99	30/60/3	N
Rollei RPX 400	135	320	20°C	11.5分	1+99	30/60/3	N
Rollei Superpan200	135	100 (50~200)	20°C	9分	1+99	30/60/3	-
Rollei Retro80S	135	25	20°C	9分	1+99	60/60/3	N
Rollei Retro400S	135	125	20°C	9分	1+99	60/60/3	-
Rollei ORTHO 25 PLUS	135 120	64	20°C	8分	1+99	60/60/3	N
ILFORD FP4 PLUS	135	125	20°C	7.5分	1+99	30/60/3	N
ILFORD HP5 PLUS	135	400	20°C	10分	1+99	60/60/3	N
ILFORD PANF PLUS	135	40	20°C	7分	1+99	30/60/3	N
ILFORD DELTA 100	135	80	20°C	7分	1+99	30/60/3	N
ILFORD DELTA 400	135	320	20°C	12分	1+99	30/60/3	N
ILFORD DELTA 3200	135	650	20°C	25分	1+99	30/60/3	N
ADOX CMS 20 II	135	10~12	20°C	7分	1+99	30/60/1	-
Foma fomapan100	135	100	20°C	9分	1+99	60/60/3	N
Foma fomapan200	135	100	20°C	7分	1+99	60/60/3	N
Foma retropan 320	135	50	20°C	20分	1+49	60/60/3	-



フィルム	サイズ	ISO感度	温度	時間	希釈	攪拌	コントラスト
Foma retropan 320	135	25	20°C	8分	1+49	60/60/3	-
Kodak Tmax100	135	50	20°C	9.5分	1+99	30/60/3	N
Kodak Eastman Double-X 5222	135	125	20°C	7.5分	1+99	30/60/3	N
Kodak Eastman Double-X 5222	135	200	20°C	8.5分	1+99	30/60/3	-
FUJI NEOPAN100 ACROSS II	135	25	20°C	7.5分	1+99	30/60/3	N
ORIENTAL NEW SEAGULL100	135	100	20°C	6分	1+99	30/60/3	N
ORIENTAL NEW SEAGULL400	135	400	20°C	17分	1+99	30/60/3	N
Kentmere 100	135	100	20°C	6.5分	1+99	30/60/3	N
JCH STREETPAN 400	135	200	20°C	15分	1+99	30/60/3	-

・記載のない120サイズフィルムは攪拌回数を1.5倍にするか、撮影感度を1/3ストップ低く設定してください。



現像時間：N±コントラスト

リールタンクによるマニュアル処理

フィルム	サイズ	ISO感度	温度	時間	希釈	攪拌	コントラスト
Rollei RPX 100	135	100	20°C	8.5分	1+99	30/60/3	N+1
Rollei RPX 100	135	100	20°C	5分	1+99	30/60/3	N-1
Rollei RPX 400	135	400	20°C	14分	1+99	30/60/3	N+1
ILFORD DELTA 3200	135	500	20°C	15分	1+99	30/60/3	N-1
Kodak Tmax100	135	50	20°C	11分	1+99	30/60/3	N+1
Foma retropan 320	135	25	20°C	60分	1+49	60/-/- (静止現像)	N-3
ORIENTAL NEW SEAGULL100	135	100	20°C	8.5分	1+99	30/60/3	N+1

・120サイズフィルムは攪拌回数を1.5倍にするか、撮影感度を1/3ストップ低く設定してください



停止、定着、水洗、フィニッシュ

東京パイロの処理液（希釈 1+99）のpHは9.4~9.6です。プロセス中は中性～アルカリ性を保つことが理想的です。ステインの濃度上昇は停止・定着処理中にも進む可能性があるため、停止・定着の液温は20°C前後を保ってください。

停止

酸性の停止液は使用せず、タンクの水を3回程度入れ替えることで停止処理をしてください。

定着

中性からアルカリ性の定着液をおすすめします。酸性定着液も使用可能ですが、ステインの生成に影響が出る可能性があります。酸化防止剤としてほとんどの定着液に使用されている亜硫酸塩は漂白作用もあるため、ステインを減らしてしまいます。そのため過度な定着処理は避けるようにしてください。オリジナル定着液 TP Fixは、pH、保存性、ステイン生成をバランス良く設計した、東京パイロ専用定着液です。定着時間が短いことと、ほとんど匂いがしないことも特徴です。そちらの利用もおすすめします。

水洗

流水で水洗します。アルカリ迅速定着液の場合は流水で5~10分で水洗は完了します。水洗促進剤は亜硫酸塩が含まれるため、あまり使用をおすすめできません。

フィニッシュ

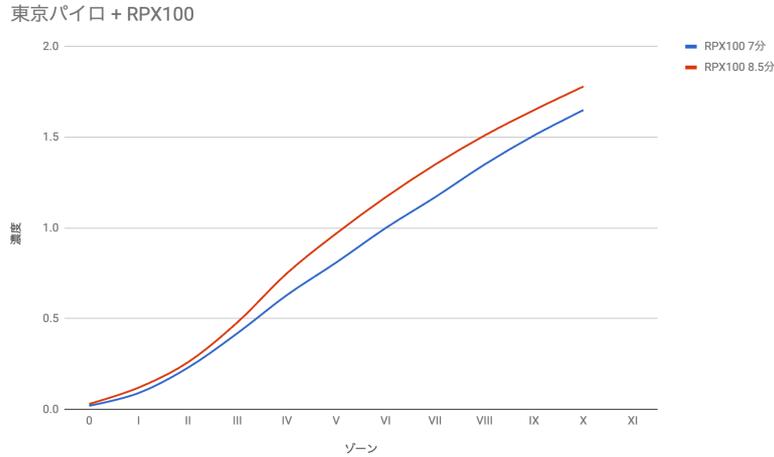
水滴防止剤やスタビライザーを使用して仕上げます。省略することもできます。乾燥ムラを予防するために、フィルム用スポンジやキムワイブなどでフィルム表面の水滴を軽く拭き取ります。フィルムの乳剤面を傷つけないように気をつけて作業してください。

保存

保存液（原液）の使用期限は開封後1年を目安としていますが、それを越えても長期間使用できます。ただし、保存液に水分が混入すると劣化が始まります。調合の際は乾燥したシリンジを使用し、水分が混入することを避けるようにしてください。



特性曲線



現像薬品の扱いについて

写真用処理薬品は、正しく使用すれば危険性はありません。すべての写真用処理薬品を取り扱い、混合するときは、手袋、保護メガネ、エプロンまたはオーバーオールを着用することをお勧めします。使用済み薬品の破棄方法はお住まいの自治体により定められています。写真廃液を業者に回収してもらうこともできます。ネット検索で近隣の業者を探ることができます。安全データシート（SDS）は東京オルタナ写真部 tokyoaltphoto.com で入手できます。

東京パイロ詳細ページ

<https://tokyoaltphoto.com/tokyo-pyro/>

